

平成 26 年度 子ども育成学部

自己点検評価報告書

1. 概 要
2. 現 況
3. 教育課程
4. 実 習
5. 学生生活支援
6. キャリア(資格取得・就職)支援
7. 地域交流・貢献活動
8. 後援会・家庭連絡
9. 研究活動
10. その他
11. 将来構想

平成 27 年3月
富山国際大学 子ども育成学部

1. 概 要

1. 実績と現状

(1) 学部の理念・目標の達成

富山国際大学は、「時代の潮流に対応できる健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会の発展に寄与する」ことを基本理念としている。平成 21 年 4 月、少子高齢化時代における地域課題の解決に取組む人材の育成を通して、地域社会に貢献することを目的として、呉羽キャンパスに子ども育成学部を設置した。

子ども育成学部がめざす人材像は、教育的愛情と子どもの福祉(幸福)への献身、専門的な知識・技術と豊かな人間性を併せ持ち、一人ひとりの子どもの発達を理解し、主体的な活動を促す環境を整えて、子どもの生活・学習・発達を支援していく、実践的能力を備えた資質の高い子ども育成の専門家である。

学部開設 6 年目の平成 26 年度は、学生総数 344 名（定員充足率 104.2%）となり、初めて総定員を充足した。平成 27 年 3 月末には、第 1~2 期生に続いて第 3 期生 77 名が就職・進学など学部での学びを生かして、それぞれの新しい人生を歩み始め、卒業生累計は 217 名となって、平成 20 年 9 月文科省提出の設置認可申請書で宣言した学部の社会的使命を果たすことができた。当初県内高校に示していた「教員採用・公立保育士採用・社会福祉士国家試験合格、それぞれ 2 枝を達成する」との目標は、見事に達成された（既卒者を含む）。

卒業生の成果は、県内の教育・福祉・保育関係者の注目を集め、高等学校・受験生・保護者の期待と評価も次第に高まっている。平成 27 年度入試志願者数は、過去最高の 260 名（定員 80 名の 3.27 倍）となり、普通科単独校からの志願も増加して、受験生の質も向上した。3 年次編入生も 6 名（定員充足率 120%）となり、中でも富山短大福祉学科からの編入生が 5 名を占めたことは、学園内連携緊密化の成果として特筆される。

(2) 教育課程・授業の展開及び教員組織

平成 26 年度は、学部第 2 期運営計画による新教育課程開始の年度であり、教養科目の科目区分再編成の下で、1 年次「英語 II」及び「キャリア支援入門」の卒業必修化、「生涯学習概論」の履修年次変更（3 年次から 1 年次へ）などを実施した。各学年各分野の授業は、教育課程表に沿って概ね順調に開講された。

平成 26 年 12 月には、文部科学省教職課程認定大学現地調査があり、シラバスなど一部に改善要請があったものの、全体的に高い評価を受けた。

教員組織では、前年度欠員の「保育表現（図画工作）」担当教員の補充、また「保育原理」等担当教員の転出に伴う後任も補充し、保育分野における教員が揃った。

また、学生による授業アンケートは、例年どおり前期・後期の 2 回実施し、各教員の授業改善に生かしてきた。幼稚園・小学校教員免許取得希望者を対象にした「教職課程履修カルテ」及び「チェックリスト」を活用した、教職をめざす学生への指導も実施した。各分野の学外実習の事前・事後指導と実習報告会、卒業研究の中間発表と卒業研究発表会なども、それぞれ改善・充実を図ってきた。

(3) 学生生活支援・家庭との連絡

学生数の増加に伴う校舎等施設利用のあり方など、学生生活をめぐる要望に応え、キャンパスアメニティを向上させるため、学生代表との懇談会や学友会（全員加入制）との連携にも引き続き努めた。学生サークルも、次々に新規結成された。

平成 25 年度の文科省「私立大学教育研究活性化設備整備費補助金」により、キャレルデスク、DVD 視聴機器等 6 階ラウンジでの学習環境の整備に続いて、26 年度も同補助金 13,918 千円により、模擬保育室環境整備（2 階小児保健実習室）及び実物投影機・ブルーレイプレーヤーなど各教室の視聴覚機材整備を行った。

個別的な学生指導では、適応支援チームを中心に、ゼミ担任・科目担当をはじめカウンセラーなどとも連携しながら、相談支援に努めた。家庭に向けた学部通信「保護者の皆様へ」

（第 11 報・第 12 報）の配布、年 2 回の保護者相談会のほか、学生生活や進路についても、適宜個別に家庭（保護者）との連絡を行い、問題が複雑・重篤なケースには、保護者来校による懇談・面接指導を行った。

また、第 1 期生の卒業を機に、富山国際大学同窓会「蒼昊会」の子ども育成学部支部も結成され、第 2 回ホームカミングデーにも多くの同窓生が参加した。小学校教育研究会の活動は活発であったが、保育分野、福祉分野での活動は在学生にのみ留まっている。

(4) キャリア支援

キャリア支援については、平成 25 年度に引き続いて「小学校教員採用 10 名、公立保育士採用 10 名、社会福祉士国家試験合格 10 名」を目標に、キャリア支援入門講座～支援講座を実施し、キャリア支援担当参事・事務室・分野担当教員・ゼミ担任の連携などにより、強化・充実を図った。

最終的には、卒業生総数 77 名に対して「小学校教員試験合格 11 名（既卒者 6 含む）、公立保育士採用 13 名（既卒者 3 含む）、社会福祉士国家試験合格 14 名（既卒者 2 含む）」の成果を上げることができた。なお、臨時採用も含めた分野別進路については、「小学校分野 15 名（25 年度 19）、保育・幼児教育分野 26 名（同 34）、社会福祉分野 21 名（同 8）、教育・福祉系大学院進学 1 名（同 4）、公務・警察 1 名（同 0）、子ども育成関係機関・団体 0 名（同 3）、企業 10 名（同 5）、その他 3 名」であり、卒業生の約 9 割が専門分野または関連分野に進んだことになる。また、社会福祉士国家試験の合格率は 60.9%（現役合格率は 66.7%で全国第 17 位、全国の平均合格率は 27.0%）の偉業を達成した。

(5) 研究

教員の研究活動では、文科省学術研究助成基金（科研費）助成研究 3 件（前年度 5）、（財）富山第一銀行奨学財団研究助成 3 件（同 3）などの外部資金を活用した研究に取り組むとともに、研究紀要「子ども育成学部紀要」第 6 卷 12 件（同 13）を発刊した。また、学内教員相互の研究交流のための研究交流サロンも 1 回（同 1）開催した。

(6) 地域交流・貢献活動

初年次に開設した「子ども育成研究交流センター」の活動として、子ども育成に関するセ

ミナー及びフォーラムの開催（各1回）とニュースレター「子ども育成研究」の発行（2回）、高校及び地域団体等からの要請に対応した出講プログラム10件（同6）、教育・福祉・保育現場や団体・行政などからの要請に対応した各種審議会・委員会の委員、講演会・研修会講師、現場実践研究への支援活動など、多様な地域貢献に取り組んだ。

（7）大学改革・教育改革への取組み

全学的な取組みの中で、文科省「知（地）の拠点整備事業」（COC事業）への申請（2次審査で不採択）、新書式による教員個人評価を行った。

学部運営体制としては、学部連絡調整会議の開催（17回）及び学部運営委員会の開催（8回）をはじめ各委員会の開催を通して、教職員の目的と情報の共有に努め、教育指導・実習指導・学生指導など学部運営の充実を図った。

今後も、学部自身の責任と自主的な改革により、地域と時代のニーズに対応した教育・研究・社会貢献活動を展開していく必要がある。

2. 課題

（1）第4期生の高い就職・進学実績の実現

第1～3期生の就職・進学実績は、関係者の間で注目・評価されたとはいえ、初期的成果に安住しているわけにはいかない。第4期生においては、是非、小学校、保育・幼児教育、社会福祉の各分野で、目標をより高く掲げて、過去3年間の水準を上回る成果をめざしていかなければならない。

（2）学部総定員（収容定員）の確保に対応した教育の質の向上

平成26年度に続いて27年度においても、学生定員の確保（総定員の充足）を維持することができることとなった。今後は、定員を大幅に上回って入学した第6期生への教育の質の向上に向けたきめの細かい指導、学部史上最も高いレベルと考えられている第7期生に対する教育・指導の充実など教育の質のより一層の向上が課題である。

（3）再編された教員組織・事務組織の活動充実

平成27年度当初には、専任教員が1名減の19名体制になる。吳羽キャンパス事務室事務長の異動など事務組織も変化する。史上最大の在籍者を擁する中で、開設時以来の実績を適切に継承・発展させて、学部としての教育力・研究力・社会貢献力をさらに高めていかなければならない。

2. 現況

1. 学生の状況（平成 27 年 3 月 31 日現在）

	在籍者数	内訳(1) 男：女	内訳(2) 出身県						
			富山	新潟	石川	福井	岐阜	愛知	山形
1年生(定員 80 名)	101 名	29 : 72	95	2	1	1			2
2年生(定員 80 名)	84 名	18 : 66	79		1	1	2	1	
3年生(定員 85 名)	80 名	21 : 59	72	7	1				
4年生(定員 85 名)	77 名	21 : 56	69	5	1	2			
計(定員 330 名)	342 名	89 : 253	315	14	4	4	2	1	2

(参考) 平成 23~27 年度入試の状況

	募集人員	志願者	合格者	入学者	備考
27 年度入試	80 名	259	174	94	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	8	6	6	3 年次編入学
26 年度入試	80 名	248	188	101	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	4	4	4	3 年次編入学
25 年度入試	80 名	236	169	85	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	1	1	1	3 年次編入学
24 年度入試	80 名	155	128	78	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	1	1	1	3 年次編入学
23 年度入試	80 名	154	136	82	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5 名	6	6	5	3 年次編入学

2. 教員組織（平成 26 年度）

区分	人数	内訳
子ども育成学部専任教員	20 名	教授 8 准教授 8 講師 4
学園内教員（兼担・兼任）	21 名	現代社会学部 4 富山短大 17
学園外教員（非常勤講師）	28 名	
計	69 名	

3. 呉羽キャンパス事務室（平成 26 年度）

区分	人数	内訳
専任事務職員	3 名	事務長 1 主査 1 主事 1
兼任職員（短大）	2 名	図書館 1 健康管理センター 1
契約職員	2 名	参事（キャリア支援担当）1 職員 1
計	7 名	

3. 教育課程

1. 実績と現状

(1) 新規の取組み

- ① 「自校教育」の導入
- ② 子ども育成学部シラバスの書式修正（「英文名」「教育課程区分」「キーワード」欄追加）
- ③ シラバス配布状況調査
- ④ 学部FD委員会の設立と活動(互見授業の推奨、第1回全学FD研究会開催)

(2) 教育指導

- ① 授業科目の履修指導・前後期末試験・再試験の実施
- ② 教養演習：(1・2年共通) 初年次教育(平成26年4月) リテラシーガイダンス(平成26年4~5月)、ゼミ別合同発表会(平成26年7月)、大学祭展示発表(平成26年10月)、個人研究発表(平成26年10月～平成27年1月)
- ③ 卒業研究：(3年) 大学祭卒業研究ゼミ紹介(平成26年10月)
(4年) 中間発表(平成26年5/20～5/24)、卒業研究発表会(平成27年2/7)
- ④ 地域社会参加活動：(1年) 20時間以上の地域活動体験、活動報告会、活動報告集
- ⑤ 富山県私学祭出品：3点(1、4年) 出品(平成26年11月：富山県高岡文化ホール)
- ⑥ 学外施設を使用した授業：

授業科目	開講時期	使用施設	実施日
日本の動き	1年前期	北日本新聞社(越中座)	26.5/8(木)
		北日本放送	26.5/29(木)
図画工作	1年前期	射水市大島絵本館	26.7/2(水)～7/3(木)
地域社会参加活動	1年通年	県総合運動公園陸上競技場(障害者スポーツ大会)	26.5/11(日)
子ども文化	1年後期	富山県こどもみらい館	26.10/23(水)
自然体験活動	1年通年	富山市ファミリーパーク	26.7/24(木)
		呉羽青少年自然の家	26.11/5(水)、11/19(水)
		富山県中央植物園	26.11/26(水)、12/3(水)
体育	2年前期	富山県総合運動公園陸上競技場	26.8/21(木)、8/22(金)
		富山市民プール	26.8/27(水)、9/1(月)
図画工作科教育法	2年後期	富山県立近代美術館	26.12/19(金)、12/26(金)
子ども活動創造演習	3年前期	富山短期大学附属みどり野幼稚園	26.7/5(土)
保育内容(造形表現)	3年後期	富山県立近代美術館	27.1/15(木)
富山の保育・教育特別 講義Ⅱ	3年後期	富山市奥田小学校	26.10/4(土)
		富山市民俗民芸村	26.10/25(土)
		富山県内の小学校9校	26.11/6(木)
更生保護制度論	4年前期	富山刑務所	26.5/28(水)
子どもと 情報メディア	4年後期	北日本新聞社、県政記者クラブ	26.11/21(木)
		富山県警記者クラブ、経済記者クラブ	26.11/28(木)

- ⑦ 授業改善の取組み：授業アンケートの実施（前・後期末 2 回）
- ⑧ 平成 26 年度「入学前オリエンテーション」の実施（平成 26 年 12 月 呉羽キャンパス）
〔推薦入学予定者 28 名、3 年次編入生 6 名〕

2. 課題

(1) 教養演習の運営方法、活動内容

富山国際大学のアクションプランのなかで検討された自校教育については、平成 26 年度 4 月の教養演習において、「【初年次教育】学長特別講義「富山国際大学の歴史と基本理念」として実施した。

ゼミ配属については、病気に罹患したり欠席したりしがちである要配慮学生を、一部ゼミに偏らないよう注意するとともに、教員のその他の負担のバランスも配慮した。

ゼミ別活動合同発表会については、教員が積極的に運営に関わるよう改善を行った。特に大学祭でのポスター発表については、感想コメントを参考に今年度の反省点を教養演習WGで議論した。ゼミ別の共同研究に入る前に、【リテラシーガイダンス】を合同化して動機づけと研究の方法論の指導を強化する具体的な改善案を取りまとめた。

(2) 卒業研究の運営方法

平成 25 年度のスケジュールを踏襲して、3・4 年生が中間発表、卒業研究発表会に参加した。学生たちが発表を行い、または見聞きした内容を学びにつなげてゆく様子が見られる一方、実習や就職活動で忙しい者は本格的に卒業研究に取りかかるのが遅い場合があるため、卒業発表会や要旨の完成度にばらつきが感じられた。

従来、卒業研究発表会はゼミごとに会場が決まっており、学生は関心ある会場へ自由に移動することができなかったが、平成 27 年 3 月の卒業研究発表会で初めて移動可能とした。結果、実際に全ての学生が部屋を移動したということではなく、移動するか否かについては、学生の所属ゼミごとに異なる様子が見られた。望ましいのは、積極的な移動の有無を含めて、発表会参加にあたっての指導を各ゼミ担当教員においてより充実してゆくことであろう。

(3) 海外への研修を伴う授業科目が抱える課題

今年度の「異文化研修」(1・2 年次開講、2 単位) は、フランスならびに欧州における政情不安の影響を考慮し、1 月下旬に大学としてフランスへの研修旅行を中止することが決定された。これに伴い、学部長から保護者宛てに中止通知書(2 月 10 日付)が発行され、学生を通してすべての保護者が大学の決定を了承したことが科目担当者によって確認された。さらに、当該科目の履修取消措置を講じ、2 月 25 日に参加予定学生 10 名全員から「履修取消願」が提出された。なお、今回のように大学で中止を決定した場合、学生から「履修取消願」を提出させることが妥当であるかどうか検討の余地がある。他に、学生及び保護者に研修旅行中止決定への「同意書」の提出を求める方法が考えられる。今後それに変更する場合は、書式の準備が必要である。

4. 実習

1. 実績と現状

(1) 実習の取り組み状況

- ① 「幼稚園教育実習Ⅰ」：付属みどり野幼稚園など 5 園 75 名 (H26.11)、報告会 (H26.12)
- ② 「幼稚園教育実習Ⅱ」：26 カ所 29 名 (H 26.9)、報告会 (H26.10)
- ③ 「保育所実習Ⅰ」 64 カ所 65 名 (H 26.9)、報告会 (H27.1)
- ④ 「保育所実習Ⅱ」 45 カ所 45 名 (H 26.6)、報告会 (H26.9)
- ⑤ 「施設実習Ⅰ」：23 カ所 64 名 (H 26.11～12)、報告会 (H27.1)
- ⑥ 「施設実習Ⅱ」：8 カ所 10 名 (H 26.6)、報告会 (H26.9)
- ⑦ 「小学校教育実習」：41 カ所 46 名 (H 26.9)、報告会 (H 27.1)
- ⑧ 「介護等体験」（小学校教員免許関連）：社会福祉施設 39 ヶ所（5 日間）+特別支援学校 10 カ所（2 日間）55 名 (H 26.6～H27.1)、報告会 (H27.2)
- ⑨ 「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」：12 カ所 15 名 (H27.2～3)
- ⑩ 「スクールソーシャルワーク実習」：中学校 2 カ所・生活保護受給世帯 4 カ所・児童養護施設 1 カ所 3 名 (H26.5～12)、報告会 (H27.2)
- ⑪ 「富山に学ぶインターンシップ」：36 カ所 31 名 (H26.6～12)、報告会 (H27.1)

(2) 実習履修要件抵触者への対応

- ・実習指導センターコンferenceを 5 回開催した（第 1 回…4 月、第 2 回…6 月、第 3 回…9 月、第 4 回…11 月、第 5 回…3 月）。実習履修要件抵触者を検討（9 月、3 月）するだけでなく、その後の対応等の状況を確認した。

＜幼稚園教育実習Ⅰ＞履修延期者…3 名 (SA 比率) +1 名（無断欠席）、面接指導…4 名

＜施設実習Ⅰ＞面接指導…5 名（そのうち 2 名…実習取り下げ）。

- ・今年度は、成績以外に健康状態（アレルギー等）で配慮を要する学生が多くみられた。本人の了解を得て事前に実習先に状態を説明するなどの対応をした。

2. 課題

(1) 複数資格取得者の事前指導の徹底

2 年次の実習履修要件抵触者で面接指導を受け、実習を取り下げる学生が見られた。複数資格取得希望者には、事前指導において資格取得の意思確認等を今一度徹底する必要がある。

(2) 実習報告会のあり方

今年度も開催日を年間計画に入れ込む等の対応をしたが、実際は実施日を調整する必要が生じた。報告会の開催時期・方法等検討が必要である。

(3) 実習指導センターの充実

5 つの資格取得のための実習は、年間 11 実習に及ぶ。実習に関する様々な手続き等を行う実習担当職員の配置を強く希望する。

5. 学生活動支援

1. 実績と現状

(1) 新規の取り組み

- ①教材の整備（小児保健実習室）： 箱積木（大）74個組、ソフトフォーミング56個組
ゲームボックスアクティブセット一式
ゲームボックスセット一式、
ハイレゾリューション対応オーディオスピーカー1台
リニアPCMレコーダー1台
ビデオカメラ3台、リモコン三脚3台
②講義室等の整備 : 書画カメラ8台、HDD搭載BDレコーダー8台
クラスルームワゴン8台、

(2) 現状（①=1年生、②=2年生、③=3年生、④=4年生）

1. 学部交流会：①②③④ アルビス小杉総合体育センター（H26.4）
2. オリエンテーション交流合宿：①② 砺波青少年自然の家、砺波チューリップ公園（H26.4）
3. スポーツ文化交流会：①②③④ 東黒牧キャンパス（運動系・文化系）、
呉羽キャンパス（清掃活動）（H26.6）
4. 学友会の運営支援：①②③④ 総会（H26.4）、七夕コンサート（H26.7）、
オープンキャンパス（H26.7・8）、クリスマス会（H26.12）、
音茶会：地元自治会の招待交流（H27.3）
5. 大学祭実行委員会の運営支援
6. 大学祭（第6回仁友祭）の開催（H26.10）：①② ポスター発表：教養演習
テーマ：「心・太」
③卒業研究ゼミ紹介 ④卒業研究紹介
①②③④ 各実習紹介
①②③④ 各サークル企画イベント
①②③ 模擬店
7. クラブ・サークル活動への支援：①②③④ 運動10・文化16 計26サークル
(運動系) バドミントン バスケットボール バレーボール 体操競技 自転車
テニス フットサル 女子軟式野球 ビーチボール SPORTY
(文化系) アカペラ ダンス 美術 演劇 JAZZ 吹奏楽部 音楽 イラスト 合唱
東北震災復興支援サークルへそ 天文 小学校教育研究会 SSW研究会
保育サークル～にこにこ～ Tuins English Club
社会福祉サークルはぴ☆まる (H27.3現在)
8. 「夢への架け橋事業」への応募・実施：①②③④ 2件
(ア) 東北震災復興支援ボランティアへそ：東北震災復興支援ボランティア（3年目）
(イ) 水上ゼミ : 限界集落支援事業（3年目）
(助成額：(ア) 97,600円、(イ) 80,400円)

9. 富山国際学園関連施設（みどり野幼稚園、にながわ保育園）での継続的ボランティア活動の実施：みどり野サポーター③12名、④5名 計77回、にながわサポーター①35名、③1名 計33回
10. 学生の要望をめぐる懇談会（学友会と教職員）：①②③④ 2回実施（H26.6、H26.12）
11. 富山市呉羽消防署署員による救命救急講習会：①② H26.8 実施
12. カウンセリング及び適応困難学生のための適応支援チーム：隨時実施
13. 交通安全講習会：①②③④ (H26.9)

2. 課題

(1) 図書館の開放時間の延長（継続課題①）

今後も引き続き、講義終了後も調べ学習等が必要となる科目が増えていくことが十分予想されるため、可能な限り、図書館の開放時間の延長を検討されるよう要望する。

(2) 学生の自主性（継続課題②）

学生がより主体的に、能動的に学友会やサークル等の活動ができるよう、教員側も側面的に支援できる体制づくりが必要である。

(3) 東黒牧キャンパスの学友会組織等との整合性（継続課題③）

学部間において各組織形態等が未だばらばらであるため、統一感をもたせることが必要。そのためにも、より有機的・友好的な交流を設けていく必要があり、特に打ち合わせや意見交換の場等は、両キャンパスを交互に変えながら開催していく等の工夫も必要である。

(4) 同窓会の支部組織「子ども育成学部支部」への支援

ホームカミングデーをはじめとする卒業生同士の交流は勿論のこと、在校生とも交流や勉強会等ができる場を支援していく必要がある。すでに、小学校教育研究会は設立され、在校生へのキャリア支援にもつなげているとともに、卒業生にとっても自らの実践を発表する等、貴重な機会の提供につなげている。今後は、保育分野、福祉分野の研究会も設立させ、支援していくことが求められる。

「なりたい自分になる大学」を着実に実現していくためにも、卒業生へのフォローアップ体制の整備と卒業生による在学生支援の場を今後一層定着させていく必要がある。

(5) ボランティアセンター設置に向けての支援

アクションプランにも掲げている重要事項の1つである。教育・保育・福祉等の各分野で地域との関わりを持って取り組む「地域社会参加活動」は、文部科学省の現地視察でも高い評価を受けたところであるが、今後はこれらの活動が継続的に、そしてより発展的に展開されるように充実を図っていくべきである。

そこで、ボランティアセンターの設置に向け、体制づくりや仕組みづくりについて、本格的な検討段階に入っているところであるが、できるだけ早く設置したい。

6. キャリア（資格取得・就職）支援

1. 実績と現状

(1) キャリア支援計画

1年次から4年次までのキャリア関連講座を分野（小学校、幼稚園・保育、社会福祉、一般企業）ごとに立案。

- ①キャリア入門講座：今年度、正規科目として開講（1年後期）。現場の専門家による特別講義 小学校分野(1/26)・保育分野(12/15)・社会福祉分野(12/22)
- ②キャリア支援講座：キャリア支援講座Ⅰ（2年・通年）、キャリア支援講座Ⅱ（3年・通年）、キャリア支援講座Ⅲ（4年・通年） 時間割に組み入れた。（H26.4～H27.1）（分野：小学校、幼稚園・保育所、社会福祉士、一般企業）

(2) 就職状況の周知

学生には就職活動状況をまた教員にはゼミ生の就職状況をその都度キャリア支援センターに報告することとし、毎月（必要に応じて）、教授会等で就職状況を全教員に周知した。

(3) 資格・免許希望調査

来年度開講するキャリア支援講座Ⅰの分野希望及び資格・免許履修の確認をした（H27.2）。

(4) 公務員・教員採用試験対策講座：呉羽キャンパスにて6日間実施（H27.3）

(5) 模擬試験の実施：

小学校教諭希望3年生対象（一般教養・教職教養・専門教養 H26.6, 7, 11, 12）

幼稚園教諭・保育士希望3、4年生対象（一般教養・教職教養・専門教養 H26.5, 6）

社会福祉士希望3、4年生対象（中央法規 H26.8、日本社会福祉士会 H26.10、ウィネット H26.12）

(6) 保育・幼児教育分野の就職に関する懇談会

①日時：平成27年2月27日（金）10：20～11：50

②場所：CiC 3階：富山国際学園サテライトオフィス

③参加者 富山県保育連絡協議会、富山県私立幼稚園協会、富山県民間保育連盟、富山県保育士会、富山県保育士・保育所支援センター、富山短期大学（計17名出席）

(7) 各分野の採用状況・採用試験問題等の整理

今年度の小学校教員・幼稚園教諭・保育士・社会福祉士の採用状況及び受験状況を各市町・事業所ごとにまとめ、面接・筆記試験等の内容を整理した。

(8) 学内合同企業説明会への参加

東黒牧キャンパスで行われた「学内合同企業説明会」に、一般企業を希望する学生10名が参加した。（H27.3.3/6）

(9) 自主研修

将来の進路に備え自主的に研修を行う「自主研修」の内訳は、学年別では、4年生（9名）、3年生（15名）、2年生（1名）、分野別では、幼保分野（20名）、福祉分野（4名）、小学校分野（1名）であった。

(10) その他

小学校に出向いて理科実験の準備や後片付け、理科室整頓などを行う「観察実験アシスタント」に、4年生（4名）、3年生（7名）、2年生（5名）、1年生（18名）の計34名が登録した。

2. 課題

平成28年度正規科目となるキャリア支援講座Ⅱの講座内容（一般企業等を含む）及び担当教員の検討が必要である。

平成 26 年度卒業生 (77 名) の進路状況

(平成 27 年 3 月 13 日現在)

小学校教育分野 15 小学校教諭・講師	保育・幼児教育分野 26 保育士・幼稚園教諭	
富山県公立学校教員 (小学校) 4 新潟県公立学校教員 (小学校) 富山県公立学校講師希望 9 新潟県公立学校講師希望	富山市保育士 5 黒部市保育士 立山町保育士 射水市保育士 高岡市保育士 南砺市保育士 入善町保育士 (臨時) 上越市保育士 (臨時) 堀川幼稚園 清水町幼稚園	にながわ保育園 2 あいじ福祉会 いちい保育園 わかくさ福祉会 射水万葉会 西光苑 あすみ福祉会 (埼玉) 太陽丘保育園 (石川) 紅葉夢保育園 (大阪) 藤幼稚園 (東京) せんりひじり幼稚園 (大阪)
社会福祉分野 21 [市町村] 富山市社会福祉士 黒部市民病院 2 [児童養護施設] 伊奈美園 (石川) [社会福祉協議会] 射水市社会福祉協議会 [病院] 山田温泉病院	社会福祉士・相談員等 [障害者施設・事業] セーナー苑 3 めひの野園 恵風会 たかおか万葉福祉会 志貴野ホーム いみず苑 渓明会 みのわの里 (新潟) [高齢者施設・事業] とやま虹の会 2 大門福祉会 日和 アルプス介護予防センター姫野	公務員 1 富山県警察 進 学 4 上越教育大学大学院 北陸ビジネス福祉専門学校 2 MTI Community College 企 業 10 大栄建材、北日本物産、アスプロ ミュニケーションズ、フランドル、マディートレーディング、フ アイブフォックス、ジェイアイエヌ、リルシーズ、イープラネット、 プレステージ・インターナショナル

■主な試験等の結果 (既卒者含む)

富山県公立学校教員 (小学校) 9名合格 (うち既卒者 5名)

新潟県公立学校教員 (小学校) 2名合格 (うち既卒者 1名)

富山県内市町村保育士 13名合格 (うち既卒者 3名)

■複数免許・資格の取得

(1) 1人当たりの法定免許・資格(小・幼・保・社(受験資格))取得数:

4種類=1名 3種類=41名 2種類=19名 1種類=10名 無=6名

(2) 資格・免許取得のべ数:

* 小学校教諭一種免許: 45名 (58.4%)

* 幼稚園教諭一種免許: 58名 (75.3%)

* 保育士資格: 53名 (68.8%)

* 社会福祉士(国家試験受験資格): 19名 (24.7%) うち合格者 12名 (受験者 18名)

* 社会福祉主任用資格: 77名 (100%)

* [日本社会福祉士養成校協会認定]スクールソーシャルワーカー: 2名 (2.6%)

7. 地域交流・貢献活動

1. 実績と現状

(1) 第6回子ども育成フォーラムの開催

- ・テーマ：「小学校における英語教育」
- ・趣旨：グローバル社会に対応し、多言語、多文化に触れさせて子ども達を育てることが重要性が広く認識されている今日、2011年度から全面実施されている小学校の「外国語活動（英語）」は、やがて教科化され、本格的な英語習得を促す教育へと発展することが予想されている。第6回の子ども育成フォーラムは、著名な英語教育の専門家を招き、小学校を中心として子ども達への英語教育の動向と課題について学び、これからの支援のあり方を共に考えた。
- ・開催日時：平成26年7月5日（土）午後1時半～4時
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701-704号室
- ・参加者数：約170名（教育・福祉・保育関係者、一般市民、学生など）

(2) 子ども育成学部第6回公開セミナーの開催

- ・テーマ：「どう育てる どう育つ 子ども育成の専門職」
- ・趣旨：少子高齢・人口減少時代を迎え、健全な次世代育成の鍵は、子ども育成専門職の資質向上にかかっています。保育・教育の現場では、実践力低下、若年離職、人材不足など、専門職の質的向上と量的確保が喫緊の課題となっています。子ども育成学部開設から6年、保育・教育・福祉の専門職として卒業生は、延べ200名を超えるとしている。

本セミナーでは、保育者養成及び小学校教員養成をめぐって、大学における教育指導、現場における実習指導、大学と実習園（校・施設）の連携など、子ども育成の専門職養成の諸課題を明らかにするとともに、大学での学びを経て、保育・教育現場で研鑽に励む卒業生の育ちのプロセスも踏まえながら、これからの子ども育成の専門職養成のあり方について考えた。

- ・開催日時：平成26年11月15日（土）午後1時半～4時15分
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701-704号室
- ・参加者数：約150名（教育・福祉・保育関係者、一般市民、学生など）

(3) 平成26年度三大学連携教員研修連続講座

主 催：富山国際大学子ども育成学部 富山大学大学院人間発達科学研究所
上越教育大学教職大学院

開催日時：平成26年7月～8月（計5回）

開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 富山大学五福キャンパス 黒部市立宇奈月小学校
氷見市教育総合センター

本学部からは、別紙のように、水上義行教授と仲井文之教授が各1回、講座を担当した。

(4) 高大連携授業（平成 26 年 4 月～27 年 3 月）

①南砺福野高校福祉科教養福祉コース

毎週月曜日に 2 時間、年間 35 回の授業「福祉一般」を村上満准教授が行い、前年度（平成 25 年 4 月～26 年 3 月）に続き 4 年目の実施となった。

②富山国際大学付属高等学校

進路系統別ガイダンス				
日付	授業者	テーマ	場所	対象等
7月8日	仲井文之 教授	子ども育成の仕事に就きたい君に	E405	2年生 2コマ
12月4日	仲井文之 教授	子ども育成専門職の資格取得と就職について	E405	1年生 2コマ

(5) 高校出講プログラム（平成 26 年 5 月～2 月）

4 年制大学への進学に向けてのモチベーションを高めることに貢献しており、高校の授業で行われていない内容であるため、より高度でアカデミックな講義を高校生に触れさせる機会となっている。依頼校の要請に応じて行うので、福祉や教育について広く教養を伝えることを旨とし、テーマについて大学知を伝えられたという点で意義があった。

高等学校を対象として、次のような出講プログラムを実施した。

	日付	教員	テーマ	出講場所	対象
1	5月 26 日	村上満准教授	社会福祉に関する講話	八尾高校	2年生
2	7月 7 日	辻井満雄教授	教員志望者への講座	高岡南高校	
3	7月 14 日	福島美枝子教授	若者の異文化体験	氷見高校	2年生
4	7月 22 日	辻井満雄教授	小学校が分かる教職論	大門高校	2年生
5	7月 23 日	辻井満雄教授	小学校の算数	大門高校	1年生
6	7月 25 日	本江理子講師	子どもの世界の魅力	南砺福光高校	
7	8月 6 日	彼谷環准教授	人権教育推進に関する研究会	富山市婦中ふれあい館	富山市立幼小中学校・園教諭
8	11月 17 日	大平泰子講師	生活習慣による心身への影響について	新川みどり野高校	学校保健委員会
9	12月 5 日	吉田昌弘准教授	一体なぜ学校へ行くのでしょうか	水橋高校	2年生 2コマ
10	12月 16 日	辻井満雄教授	小学校が分かる教職論	石川・津幡高校	2年生
11	1月 26 日	村上 満准教授	障がい者の就労支援、地域福祉の進展	となみ野高校	
12	1月 29 日	福島美枝子教授	英語の学び方、楽しみ方など	富山商業高校	2年生
13	2月 12 日	辻井満雄教授	小学校が分かる教職論	福井・丹南高校	2年生
14	2月 27 日	村上満准教授	発達障害の子どもが二次障害を引き起こさないために & セルフケアについて	水橋高校	教職員研修
15	3月 19 日	辻井満雄教授	小学校が分かる教職論	福光高校	2年生

(6) 平成 26 年度教員免許状更新講習

- ・募集期間：平成 26 年 7 月 22 日（火）～8 月 8 日（金）
- ・日 程：平成 26 年 8 月 20 日（水）・21 日（木）
- ・受講者数：46 名（幼稚園教諭免許 44 名・小学校教諭免許 2 名）
- ・認 定 者：46 名
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 401 室・406 室

(7) 平成 26 年富山県保育士試験（筆記）

社団法人全国保育士養成協議会の依頼により、筆記試験会場の提供及び筆記試験運営業務に対する教職員と学生アルバイトの人的支援を行っている。

また平成 26 年 10 月 19 日（日）は、台風のため延期となった筆記試験が実施され、実技試験は平成 26 年 12 月 14 日（日）に富山福祉短期大学が試験場となり実施されている。

①日程

- ・筆記試験：平成 26 年 8 月 9 日（土）・10 日（日） 7:30～18:00 280 名受験
試験準備：平成 26 年 8 月 8 日（金） 16:30～18:00

②人的支援

- ・筆記試験：教員 5 名、職員 2 名、学生アルバイト 9 名

③その他

- ・平成 26 年 8 月 9 日（土）2 限目の試験で、監督補助者（本学学生）が不正行為を発見、実務管理者が不正行為の確認を行い、本部長より該当者を摘発。
- ・平成 26 年 8 月 10 日（日）の試験は、北陸地方が台風の接近に伴い当日全試験延期。

2. 課題

(1) 子ども育成フォーラム・公開セミナー

テーマ設定、講師の人選等、外部行事の予定も調査した上で全てを早めに決定し、直接案内も含めた早期事前告知により、広範囲からの集客の確保に努める必要がある。

(2) 三大学連携教員研修連続講座

- ① 平成 26 年度研修講義録をアーカイブ化し公開を実施。このことにより、受講者が事前に予習することもでき、また関心のある教員、学生の学びにも生かせるようになった。
- ② 三大学連携講座について、現場教員の教職研修に徐々に取り入れられ、受講者が増えてきている。
- ③ 教員を志望する学生の資質をあげるためにも、学生に三大学連携講座を浸透させることが必要である。

(3) 平成 26 年度教員免許状更新講習

平成 27 年度より、現在は必修領域に加え選択必修領域が設定されることから、年度が変わった時点から早急に、内容及び担当者の検討に入る必要がある。

(4) 平成 26 年度富山県保育士試験（筆記）

平成 26 年度試験では、台風のため 2 日目の全試験の延期等不測の事態に見舞われた。平成 27 年度試験は、筆記及び実技試験の全てが富山福祉短期大学を会場として実施される見込である。



現代的教育課題への挑戦! 2014 3大学連携による 教員研修 連続講座

- 会場
- ・富山国際大学呉羽キャンパス
富山県富山市願海寺水口444 TEL:076-436-2570
 - ・富山大学五福キャンパス
富山県富山市五福3190番地 TEL:076-445-6011代
 - ・黒部市立宇奈月小学校
富山県黒部市宇奈月町浦山205番地1 TEL:0765-65-2288
 - ・氷見市教育総合センター
富山県氷見市本町4番9号氷見市教育文化センター
TEL:0766-74-8220

免許状更新講習
11年次研修 } も兼ねています。

一般参加の方は 参加費無料

近々 学校や教職員をとりまく様々な課題が出され、その早急な解決が求められています。これらの課題を「現代的教育課題」ととらえ、その解決に向けて、教員...にわたる富山国際大学子ども育成学部、富山大学大学院人間発達科学研究所、上越教育大学教職大学院が連携し、富山を舞台に総勢15人の大学教員がそれぞれの研究をもとにわかりやすく語ります。教職員の方、これから教員を目指す方、また学校教育に関心のある方など、一段高い自分を志すあなたの参加をお待ちしております。

共催

氷見市教育委員会・黒部市教育委員会

後援

富山県教育委員会

日程

7月～8月の5回

対象

保育所や幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等に勤務する教職員や教員を志す学生、教育に関心のある方など

申込み方法

■免許状更新講習として受講される方

富山大学から配布されている平成26年度富山大学教員免許状更新講習受講者募集要項にしたがって手続きをしてください。
教員免許状更新講習: <http://www.u-toyama.ac.jp/collaboration/credential/index.html>

■一般参加の方

当日参加も可能ですが、準備の都合上、事前にお申し込みいただければ幸いです。
上越教育大学研究連携室にFAXかE-mailで、お申し込みください。

FAX: 025-521-3621 E-mail: kouen@juen.ac.jp

※E-mailの場合は、件名を「富山講座申込」とし、氏名、所属、参加希望講座をお知らせください。

問い合わせ

ご不明な点等ありましたら、E-mailでお問い合わせください。

E-mail: seto@juen.ac.jp

(上越教育大学大学院学校教育研究科(教職大学院) 教授瀬戸健)



参 加
申込書

現代的教育課題 2014
への挑戦! 3大学連携による教員研修連続講座
FAX:025-521-3621 (上越教育大学研究連携室) E-mail: kouen@juen.ac.jp

氏名

所属

ご希望の講座のみの参加も可能です。参加希望講座を○で囲んでください。

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回



現代的教育課題 への挑戦! 2014 3大学連携による 教員研修連続講座

ご希望の講座のみの参加も可能です。

日時／会場	テーマ	担当／所属	内 容
第1回講座 7月29日(火) 会場 黒部市立宇奈月小学校	次代を担う教師の力量	時間／9:00～11:10 富山大学 教授 山西 潤一	学校課題の解決にICT活用を ～情報化時代の戦略的な学校経営～
		時間／11:20～14:20 上越教育大学 教授 武嶋 俊行	学校経営における危機管理と 実践的課題
		時間／14:30～16:40 上越教育大学 教授 廣瀬 裕一	法令を踏まえた教育・指導
第2回講座 8月5日(火) 会場 富山大学人間発達科学部五福キャンパス	子どもを取り巻く教育課題と実践的指導法	時間／9:00～11:10 富山大学 教授 小林 真	気になる子どもを含んだ学級経営を考える ～特別支援教育と開発的カウンセリングの融合～
		時間／11:20～14:20 富山大学 准教授 石津 憲一郎	臨床心理学から見た現代の子どもの成長
		時間／14:30～16:40 上越教育大学 教授 水落 芳明	学び合う学習デザイン
第3回講座 8月8日(金) 会場 富山大学人間発達科学部五福キャンパス	情報モラルとICT活用	時間／9:00～11:10 富山大学 准教授 長谷川 春生	情報モラルの基礎知識と指導方法
		時間／11:20～14:20 上越教育大学 教授 石野 正彦	情報化社会における国語教育
		時間／14:30～16:40 富山大学 准教授 高橋 純	わかりやすい授業づくりのためのICT活用
第4回講座 8月11日(月) 会場 氷見市教育総合センター	教科の特性を活かした授業づくり	時間／9:00～11:10 富山大学 教授 松本 謙一	生活科・理科の特性を活かす
		時間／11:20～14:20 上越教育大学 教授 岩崎 浩	子どもの知的探求心を育む算数科の授業づくり
		時間／14:30～16:40 富山国際大学 教授 水上 義行	社会科が目指す授業と学力
第5回講座 8月19日(火) 会場 富山国際大学子ども育成学部吳羽キャンパス	子どもの成長と学力	時間／9:00～11:10 上越教育大学 教授 西川 純	全員が参加する授業づくり
		時間／11:20～14:20 富山国際大学 教授 仲井 文之	国語科教育で育てる学力
		時間／14:30～16:40 富山大学 教授 神川 康子	基本的な生活習慣と学力、人間力

昼休みは12時20分から13時20分です。

8. 後援会・家庭連絡

1. 実績と現状

(1) 後援会総会・個別相談会

H26. 6 後援会総会に合わせて個別相談会が実施され、相談希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、ゼミ担任などが対応した。

(2) 大学祭・保護者懇談会

H26. 10 第6回大学祭初日に、保護者説明会を開催し、学部と学生の概況、就職動向などについて説明した。

説明会終了後、希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、各ゼミ担任が対応した。

(3) 保護者あて「学生の皆さんのお概況について」の送付

H26. 5 に第11報、H26. 9 に第12報を送付して、学部の概況、各学年の学生の状況、家庭への要望事項などを記した資料を配布した。執筆は、学部長及び各学年演習担当者。

※別紙「第11報」及び「第12報」を参照

(4) その他家庭との連絡・保護者面談など

学業成績や学習態度、欠席多数などの問題、休学や退学、学外実習許可の履修要件に抵触する学生などの保護者について、適宜ゼミ担任または適応支援チームが個別面談の機会を持ち、家庭への状況説明と情報収集、連携協力依頼などを行った。

2. 課題

(1) 家庭との連絡・協力の一層の緊密化

現状では、問題発生への対処として個別相談を実施しているが、問題の予防的な意味からも、平常時からの家庭との連絡・協力をより緊密にしていく必要がある。

(2) 相談記録の集約・保存・引き継ぎ・活用

家庭との相談の記録、学生の状況記録などは、各ゼミ担任個人レベルでの整理・保存にとどまっており、記録の作成・引き継ぎなどについては、記録用の様式について、学部として一定の書式が確認されたが、完全なルール化と円滑な運営までには至っていない。

既存の「学生に関する調査」と一体化した上で、一括管理して、記録、保存、閲覧、引継ができるようにしていく必要がある。その際、既存の「教職カルテ」の改良と活用も含めて検討していく必要がある。

保護者の皆様へ 「学生の皆さんのお概況について」(第11報)

平成26年5月・子ども育成学部

1. はじめに

日頃のご理解ご支援、感謝申し上げます。昨年の学園創立50周年を経て、新しい50年への歩みが始まりました。開設6年目の子ども育成学部は、6年間の入学者累計497名・卒業生総数140名、26年度定員充足率104.2%となって「定員割れ」が解消されました。

ここに6月の後援会総会・個別相談会のご案内に併せて、学部と学生の皆さんのお概況についてお知らせします。保護者の皆様方には、大学での学びと生活についてご理解いただき、ご家庭での懇談や指導などのご参考にしていただければ幸いに存じます。

2. 学生・教職員の現況 (26年度始めの現況は、次のとおりです。よろしくお願ひいたします。)

- ・学生 1年生 101 2年生 85 3年生 80 4年生 78 合計 344名
(内訳) [男子 89 : 女子 255] [富山 318 : 新潟 14 : 福井 4 : 石川 3 : 岐阜 2 : 山形 2 : 愛知 1]
- ・教員 専任 20 (教授 8・准教授 8・講師 4)、学園内兼任 23、非常勤講師 26、合計 69名
- ・職員 専任事務 3、兼任事務 4、契約参事 1、派遣事務 1

3. 第2期卒業生(76名)の就職・進学状況 (H26.4.20現在) (1期生を上回る成果を挙げました。)

- ・就職率 100% 小学校教諭 19 (うち講師 14)、保育士/幼稚園教諭 34、社会福祉職 10、
関係団体 1、企業 5、大学院 4、家事等 3
- ・資格/免許 小学校教諭 45 幼稚園教諭 63 保育士 47 社会福祉主任用資格 76
社会福祉士(受験資格 27・合格 12(合格率全国 32位)) スクールソーシャルワーカー 3

4. 平成26年度の新規の取組み

- ① 保育・幼児教育分野の専任教員 (新規 1・補充 1) を採用し、指導体制を強化しました。
- ② 教養科目の再編、英語・国際関係科目や教員免許関係科目の充実強化に取組んでいます。
- ③ 論文・レポート執筆の際の引用・参考文献の取り扱いについて、改めて指導しています。
- ④ 1階ラウンジの照明増設、6階の自習机 24 セット (一部ブルーレイ機器付) を整備しました。
- ⑤ 学生ホール・コンビニ・体育館など新設された福利厚生施設の利用が始まりました。
- ⑥ 新設の同窓会子ども育成学部支部の活動、同窓生の卒後教育と交流を支援しています。

5. 各学年の概況について

- 次ページ以降の、1~4学年の概況報告をご覧ください。
- 授業・行事や学生生活の様子を、大学のホームページに掲載しています。ぜひご覧下さい。

6. おわりに

子ども育成学部は、「明日を担う子どもの育成を通して、地域に貢献できる人材の養成」を目的として、学生の皆さん一人ひとりの夢「なりたい自分」を叶えるための教育・研究に努めています。これまで6年間の教育実績も、県内外から高く評価・注目されています。

今年度も、学生の皆さんの強い意志と自己向上努力を軸に、保護者の皆様方と共に歩んで参ります。今後ともご理解ご協力くださいよう、よろしくお願ひいたします。

(子ども育成学部長 宮田伸朗)

*個別懇談会についてのお知らせ

- ・6月21日(土)の後援会総会に先立ち、ゼミ担任との個別懇談会を開催します。
- ・懇談を希望される場合は、ご遠慮なくお申し込みください。
- ・なお、ゼミ担任(学部長)から保護者の方に、ご来談くださるよう別途お願いする場合もあります。学業成績や学生生活、学外実習の履修などについてご相談申し上げたいと存じます。
- ・その節には、万障繰り合わせてご来場くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

1年生の概況について

「教養演習」(1年生)担当教員

はつらつとした面持ちで富山国際会議場での入学式に101名の入学生が臨んだのは、4月のはじめでした。それから3か月が経過しようとしています。少しづつ大学での学問と学生生活にも慣れ、子ども育成学部の一員らしい顔つきへと成長し始めています。

1. 富山国際大学で学ぶために

- ・4月当初のオリエンテーションでは、学部の教育理念・目標、年間計画、教育課程・学年暦・行事予定、資格・免許などの説明を行いました。学部長からは、未来の専門職として子どもたちの良きモデルとなる生き方を心がけるよう、強い要請がありました。
- ・初年次教育として、学長特別講義『富山国際大学の歴史と基本理念』を実施しました（新規の取組み）。学園の理念「知性・教養・個性」と大学の基本理念「共存・共生」を理解し、本学学生としての自覚を深め、勉学意欲の向上を促すとともに、「大学で学ぶとは」という学びの本質論も指導しました。学部長からは「子ども育成論」について講義を行いました。

2. 授業など学習面について

- ・毎日の授業では、1時限90分で夕方6時まで、毎時間出席確認などにも少しづつ慣れて來たようです。4月当初には、『教養演習ガイドブック』などを教材に、各ゼミにおいてノートのとり方やレポートの書き方などの具体論も指導しました。2年生の先輩の経験談とともに、高校との違いを乗り越える力となればと期待します。なお7月には、ゼミ毎に進めている共同研究の成果を発表する教養演習ゼミ別合同発表会を行う予定です。
- ・8月上旬に期末試験、夏季休業は8月中旬～9月末となっていますのでご理解願います。

3. 生活面について

- ・各ゼミ室で教員や学生の交流機会を設けるなど、新入生が大学生活に自然と馴染めるよう工夫しています。また、大学生活が順調に滑り出せるよう、ゼミ担任・事務職員・健康管理センター・カウンセラーなどが連携しながら適応支援に努めています。
- ・日々の授業への集中、規則正しい生活習慣と生活リズムの確立など、ご家庭でもご指導をお願いいたします。なお、一部にマナー違反、粗野な言動など学部の学風にそぐわない者が見られ、指導を強化しています。また、アルバイト等に貴重な時間を過度に割いて、折角の大学時代の意義が犠牲にならないよう、ご理解の程お願いいたします。

4. 就職等キャリア支援について

- ・今年も専門職求人は順調で、教員・保育士など県市町村の募集要項も発表済みです。今年度から1年次に「キャリア入門講座」を正課の授業科目として開講します。小学校教諭、保育士、社会福祉士の第一線の先生方をお招きして、教育・保育・福祉の現場の話を学生が直接聞く機会も設けます。子ども育成の職場と専門職への理解を深めながら、資格免許取得への動機づけとなり、卒後に向けて学習への意欲を高めることを目的としています。

5. 学校行事等について

- ・4月25日(金)・26日(土)の両日、砺波青少年自然の家で1・2年生によるオリエンテーション交流合宿を行いました。緑豊かな自然環境の中で、親睦と交流を深めました。
- ・4月25日(金)の午前中は、学部の学友会総会ならびに1～4学年参加による学部交流会(ビーチバレー大会)を実施し、3・4年生とも交流しました。

□保護者の皆様には、今後とも一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(「教養演習」1年生担当：大藪・小林)

2年生の概況について

「教養演習」(2年生)担当教員

2年生に進級して後輩ができたことで、授業や課外活動等で頼もしく活動する姿が見られます。一方、後輩に助言することの難しさも同時に体験しているようです。このような経験を糧に、一人ひとり着実に成長していくことを願っています。

1. 授業など学習面について

- ・2年次から、保育・教育・福祉分野の専門科目の授業や実習指導が本格的に始まりました。
- ・「教養演習」では、1・2年生合同クラス・後輩との学び合いの中で、改めて大学生活の基本を確認しました。今後は、7月のゼミ別活動合同発表会に向けて、ゼミごとにテーマを決めて調査・探求を行い、1年生をリードしながら研究成果をまとめ上げていきます。
- ・小学校教員免許希望者を対象として、「介護等体験」の事前指導を行っています。早い学生で6月から特別支援学校(2日間)や社会福祉施設(5日間)に出かけます。
- ・保育士資格希望者には、9月の学外実習「保育所実習Ⅰ」(0~2歳児)に向け、事前指導を行っています。また、11月の「施設実習Ⅰ」に向け、6月に児童福祉施設等を見学します。
- ・社会福祉士をめざす学生が「相談援助技術」を学ぶための演習も始まりました。具体的な援助場面を想定した実技指導で、専門的な技術とともにキャリア意識も深めています。

2. 就職等キャリア支援について

- ・「2年生キャリア支援講座Ⅰ」においては、各分野の仕事への理解を深めたり、採用試験の概要を学んだりしています。この講座等を通して、進路を決定し希望を実現できるよう支援していきます。分野選択の悩みなどについては、早めにご遠慮なくお尋ねください。

3. 生活面について

- ・自家用車通学者には事故防止のための注意を喚起しております。学園駐車場での駐車マナーも含め、特に交通安全についてはご家庭でもご留意をお願いいたします。
- ・授業に欠席しがちな学生は、進路の迷いや友人関係の悩みを抱えている場合も多いようです。欠席回数が多いと実習の履修が許可されず(資格免許の取得が困難になる)、また、期末試験の受験資格を失う場合があります。ご家庭でのご支援もお願いいたします。
- ・アルバイトをしている学生が多く、夜のアルバイトで翌日の授業への遅刻や居眠りなどが一部の学生に見られます。基本は「学業が最優先」ですので、夜遅くのアルバイトは控えるよう指導しています。ご家庭でも、実情把握と適切なご指導をお願いいたします。

4. 学校行事について

- ・4月25日(金)・26日(土)のオリエンテーション交流合宿は、2年生の実行委員を中心に準備を進め、企画運営の経験を積む好機ともなりました。初日は全学年が参加した学友会総会とともにスポーツによる学部交流会も行われ、親睦と交流を深めました。

□2年生は、実習などを通して卒業後の進路を真剣に考え、絞っていく学年でもあります。保護者の皆様には、一層のご理解ご支援をくださいますようお願い申し上げます。

(「教養演習」2年生担当:石倉・大平)

3年生の概況について

「卒業研究」（3年生）担当教員

学生生活はすでに折り返しを過ぎました。卒業後の将来像が近づいてきたことで、不安になっている姿も見られますが、先輩たちを見習い、毎日地道な努力を続けてほしいものです。日々の過ごし方を見直し、残りの学生生活が有意義なものとなるよう願っています。

1. 学外実習について

- ・9月には、15日間の「小学校教育実習」または「幼稚園教育実習Ⅱ」が予定されています。
- ・小学校教育実習に向けては、授業「教科教育法」での教材研究や指導案づくり、模擬授業など、主要教科の専任教員による体制が整って、より充実した指導が行われています。
- ・幼稚園教育実習Ⅱに向けては、内諾実習先を訪問し、園の教育目標や幼児の生活について学びつつ事前打ち合わせをしながら、15日間の実習で多くの学びが得られるよう着々と準備を進めています。指導案を作成しての模擬保育で実践力をつけていく予定です。
- ・社会福祉分野では、3年次2~3月の「相談援助実習」（25日間かつ180時間）のための演習などを積み重ねつつ、社会福祉士国家試験に向けた準備もスタートさせています。
- ・実習に向けて、「実際の子ども達の様子をもっと直接知りたい」と、「富山に学ぶインターンシップ」体験、「自主研修」制度などを活用して、小学校・幼稚園・保育所などに出かける学生もいます。直接子どもと触れ合う中での体験は、学び深きものとなっています。
- ・充実した実習のためには、日常の健康管理が大切になります。学外のボランティア活動やアルバイトからの学びも大きなものですが、大学での効果的な学習が第一であることを忘れず、学業を最優先に考えて、生活リズムを整えていくことを奨励しています。

2. 卒業研究について

- ・本学では3年次から4年次にかけて卒業研究を行うカリキュラムとなっており、4月よりそれぞれの専門分野に分かれて卒業論文作成の準備をスタートしました。なかなかテーマを絞りきれない学生が多いようですが、さまざまな先行研究を調べていくうちに、自ずと研究したい命題が出てくるはずです。4年次には卒業研究発表会が予定されています。
- ・5月には、4年生の中間ポスター発表があり、先輩たちが現地取材に出かけたり、懸命に先行研究論文を読み込んだりした成果を見て、大いに刺激を受けています。学生一人ひとりが、満足のいく研究テーマを見つけて論文作成に取り組めるような指導を心がけています。

3. キャリア支援について

- ・今年度前期は、金曜5限に「キャリア支援講座Ⅱ」が開講され、3年生は全員、小学校・社会福祉・保育の中で希望する分野を受講しています。企業や公務員などを目指す学生に關しても講座が開かれています。
- ・小学校分野では採用試験対策、幼稚園・保育士分野では公立・私立保育所を中心とした採用試験対策、社会福祉分野では公立・私立の事業所等を目指した採用試験対策を行っています。参加率が非常に良く、関心の高さと熱意が伝わってきます。

□最終学年につながる大事な学年です。ご家庭でも一層の励ましをお願い申し上げます。

（「卒業研究」3年生担当：仲井・本江）

4年生の概況について

「卒業研究」「キャリア支援」(4年生) 担当教員

子ども育成の学びの積み上げの最終学年となる4年生は、学部のリーダーとして力を発揮するとともに、次のような様々な事柄に対応すべく、忙しくも充実した日々を送っています。

1. 授業など学習面について

- ・4年次は、一般に授業科目は少なめになってきますが、卒業に必要な科目・単位、資格免許に必要な科目・単位が満たされているかどうか、念のため十分な確認が必要です。
- ・最後の学生生活、意欲的な学びで視野を広げ、人間的な成長を期待したいものです。

2. 卒業研究について

- ・3年次からの「卒業研究」については、学外実習や就職試験対策に取り組みながら、4年生全員が、来年1月の論文提出、2月の卒業研究発表会に照準を合わせて、自身の力を発揮しながら立派に仕上げてくれることを期待しています。
- ・卒業研究の期間は2年間であり、かなり長期にわたるため、中間発表会を設けています。今年度は5/19（月）～5/29（木）にポスター発表を行います。4年生78人が各自の今までの研究成果をA1判（A4判8枚分）ポスターにまとめて掲示します。
- ・この中間発表は下級生にとっては、学びの集大成である卒業研究を進めて行く上での道標となるものです。4年生にとっては質疑応答をとおして、研究の具体化や課題の明確化が進むことから、その深化が期待されます。

3. 就職・進学・キャリア支援について

- ・今年度は、昨年度を上回る求人が見込まれています。3・4年生全員には、その都度一斉メールで【求人速報】を配布しています。受験予定者に対する個別相談、履歴書・面接指導にも取り組んでいます。ご家庭でも是非関心を持っていただき、確かな就職や進学の実現に向けて、慎重かつ適時適切な対応をお願いいたします。
- ・小学校分野では、最後の模擬試験、集団面接、採用試験直前の専門・教職教養の演習等に取り組んでいます。富山県小学校教員採用試験7/19-20には、19名が願書提出の予定です。
- ・幼保分野では、7/5・6の市町村保育士採用試験をはじめ、民間保育所の求人も寄せられていて、模擬試験や集団・個人模擬面接などの指導を行っています。福祉職場説明会や私立幼稚園適性検査への取り組みも始めています。
- ・福祉職を希望する学生には、希望職種に応じて個別に指導しています。6月に富山県健康・福祉人材センターの求職者登録を済ませる予定で、7月から福祉職場説明会も始まります。
- ・一般公務員・企業を希望する学生に対しては、希望職種に応じて専門のアドバイザーによる模擬面接の指導や就職情報、採用試験に向けた支援をしています。
- ・4月末現在、希望進路の状況（一部重複希望あり）は、小学校教諭19名、幼稚園教諭・保育所保育士31名、社会福祉関係20名、進学1名、企業等12名などとなっています。

□学生生活最後の学年、悔いのない1年、そして豊かな人生につながる1年となりますよう、保護者の皆様方とご一緒に努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(「卒業研究」4年生担当：吉田・相山)

保護者の皆様へ「学生の皆さんのお概況について」(第12報)

平成26年9月・子ども育成学部

平成26年度も後半を迎えます。8~9月の夏季休業中には、4年生は小学校・保育・福祉の公・私立就職試験や卒業研究、2・3年生は保育所・小学校・幼稚園実習を終え、休む間もなく後期授業が始まります。6月に続き、その後の学生の皆さんのお概況についてお知らせします。

1. 就職・進学・キャリア支援について

- ・4年生では、小学校教員4名（結果待ち2名）、保育士12名、福祉分野10名、公務員・企業8名の合格・内定・内々定が出ています（9月25日現在）。小学校教員は臨時講師への道、保育士は公立（富山・高岡・黒部）の2次試験や民間保育所採用試験、福祉は民間福祉・医療事業所採用試験や国家試験対策など、それぞれ最後の踏ん張りどころです。企業も含めて、ゼミ担任や各分野の担当教員にご相談下さい。
- ・3年生の「キャリア支援講座」は、分野別に集中的に指導します。4年次の採用試験まであと半年余り。実習の成果を振り返りながら、専門・教養ともすぐに対策開始です。
- ・2年生は、後期は専門職連携授業が多く開講されます。日々の授業、実習の事前事後学習への専心が重要です。就職準備の「教養試験対策講座」も全員受講を期待しています。
- ・1年生には、「キャリア入門講座」を開講します。①小学校教諭、②幼稚園教諭・保育士、③社会福祉士の進路選択について、ご家庭でも十分に話し合われますようお願いします。

2. 学習面について

- ・前期(4~9月)の学業成績を同封しております。一部の学年や科目で、再試験対象者が目立ちました。成績不振のため実習を延期する（⇒資格免許が取りにくくなる）場合や卒業延期が見込まれる場合は、保護者の方とも個別相談をさせていただきます。日頃の学習の大切さについて、十分ご理解願います。なお、この間に、21年度生で9月卒業1名、25年度生で退学1名、26年度生で休学2名がありました。
- ・教員・保育士・社会福祉士など子ども育成の専門家への道は、容易ではありません。実習先・就職先など社会の注目と期待は、極めて強く厳しいものがあります。日頃から「学びの精神」をしっかりと持って、授業・予習・復習・課題などに地道に取り組むことが、確かな就職につながります。生活リズムを崩す過度のアルバイトや活動などで、学生生活も将来も貧しくしてしまわないよう、ご家庭でも責任あるご指導をお願いします。

3. 進路・学習・生活面での相談支援について

- ・相談支援の窓口には、①ゼミ担任、②科目担当教員、③実習担当教員、④キャリア支援窓口、⑤事務室、⑥健康管理センターなど多様な機関があります。また、⑦投書箱・メール相談、⑧学友会役員を通しての要望・相談なども可能です。
- ・授業や実習などをめぐり、自分の適性や進路選択の悩みなど様々な思いが交錯する時期です。保護者の皆様には、現実的で適切な助言などご理解ご協力ををお願い申し上げます。

4. 第6回大学祭と保護者懇談会

- ・10月18・19日に開催の第6回大学祭のうち、18日の保護者懇談会では、就職などの説明を行います。大勢の保護者の皆様のご来校をお待ちしております。（学部長：宮田伸朗）

1年生の概況について

「教養演習」(1年生)担当教員

大学生になって初めて前期・後期の2学期制での学び方を経験し、夏休みも終わり、後期がいよいよ始まります。後期では専門的な学習や実習が本格化しますので、保護者の皆様には、これからも学習面と学生生活にご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

1. 学習面・生活面について

- ・前期授業では、大学ならではの一コマ90分の授業や論理的な思考力を問う学期末試験に戸惑いがあったかもしれません。高校までとは違い、資格免許を取得するための履修科目を自分で選び、その授業の学びを身に付けていくためには、授業の準備や自主的な学習等をすることが大切です。一部の学生の中には体調不良や寝不足等による遅刻や欠席がありました。日々の授業への集中、規則正しい生活習慣と生活リズムの確立など、ご家庭でも引き続きご指導をお願いいたします。また、アルバイト等に貴重な時間を過度に割いて、折角の大学で学ぶ意義が犠牲にならないよう、ご理解の程お願いいたします。
- ・大学コンソーシアム科目で、富山の文化や産業、富山の未来を学ぶ「とやま地域学」(集中講義)に、1年生から多くの学生が参加しました。「富山に学ぼう」という積極的な姿勢がうかがえます。
- ・1年次の通年授業「地域社会参加活動」は、20時間以上の地域社会とつながる学習や活動をとおして、子どもの生活・発達や地域社会の現状と課題を学ぶものです。にながわ保育園(社会福祉法人・富山国際学園福祉会)の運動会では、競技の道具の出し入れや園児への補助など、さわやかな動き方で活動に汗を流す姿が見られました。

2. キャリア支援について

- ・小学校、幼稚園・保育所、社会福祉など各分野に向けた「キャリア入門講座」が後期から卒業必修科目の授業として始まり、計画的にキャリア形成ができるよう1年次から指導します。キャリア支援講座の中では、小学校教諭、保育者、社会福祉士の先輩方をお招きして、それぞれの現場の話を学生が直接聴く機会を設けます。専門職への理解を深めながら、資格免許取得への動機づけとなり、学習への意欲を高めることを目的としています。ご家庭でも、将来の方向性について是非この時期から話題にしていただきたいと思います。

3. 専門的学習や実習に向けて

- ・1年次後期からは、「幼稚園教育実習Ⅰ」が始まります。いよいよ卒業後の進路を見通した専門的な学習や実習が本格化します。社会人としての必要なマナーを身につけながら、専門職の素晴らしい厳しさを体験する機会です。
- ・日々の講義で多くの分野について学びながらも、自分の目指す道を決めていく時期です。今後も教職員一同、全力で教育・指導に努めてまいりますので保護者の皆様には、今後とも一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(担当: 大藪・小林)

2年生の概況について

「教養演習」(2年生)担当教員

夏季休業も終わり、後期の授業・活動に向けて学生たちはそれぞれ準備を始めています。保護者の皆様には、以下の点にご理解とご協力を下さいますようお願いいたします。

1. 授業・学習面について

- ・8月末には、保育士・幼稚園教員・小学校教員の資格免許科目の体育の学外授業が行われました。体育は卒業必修科目にもなっており、陸上競技場や市民プールで、2年生全員が幼児・児童の体育指導法について、自らの体験を通して学びました。
- ・大学祭（10月18・19日）において、前期の教養演習で取り組んだ共同研究をポスター掲示で発表します。ゼミごとに学生が主体的に調査研究を行った成果をまとめ、参観者に見やすくわかりやすく掲示することをねらいとして、準備を進めています。
- ・授業を6回欠席しますと、期末試験の受験資格がなくなり単位が取得できません。卒業や資格取得にもかかわる問題ですので、ご家庭でもご指導をお願いいたします。

2. 実習・キャリア支援について

- ・実習の履修要件を満たさなければ原則として実習には行けません。前期の成績・態度は後期に、2年生の成績・態度は3年生に影響しますので、学生にも注意を促しています。
- ・保育士資格取得希望者は、9月に10日間の「保育所実習Ⅰ」を終えました。実習後も大学に来て、実習日誌の記入や教材作りなど真摯に取り組む様子が見られました。後期に行われる保育士資格科目「施設実習Ⅰ」についても配属が決定しており、2班体制で行います（A班：11/10～21、B班：11/25～12/8）。実習に向けて、実習施設についての事前学習と自己課題の明確化、体調の管理が望まれます。
- ・小学校教諭一種免許状取得希望者は、6月から随時「介護等体験」（特別支援学校2日間・社会福祉施設等5日間）に出かけています。介護等体験の終了後には報告会を開催し、体験の振り返りを行う予定です。また、来年9月・3年次の「小学校教育実習」に向けて、夏季休業中から自分の母校へ実習依頼に出向き、手続きを進めています。
- ・3年次に行われる「幼稚園教育実習Ⅱ」の履修希望調査が始まります。幼稚園教諭一種免許状の取得について、科目担当教員とも相談しながら手続きを進めていきます。
- ・「キャリア支援講座Ⅰ」では、希望する分野に分かれて指導を行っています。小学校分野では、教員採用試験で過去に出題された問題を、保育分野では、実技や専門科目の学習を、社会福祉分野では、社会福祉が関わる様々な課題について考える機会を持っています。進路に悩んでいる学生も見られますので、ご家庭でのご支援をお願いいたします。

3. 授業外の活動・生活面について

- ・オープンキャンパス（7・8月）では、学友会の2年生が中心となって大学生活についての紹介を行うなど、様々な係を通して、多くの高校生と触れ合う機会となりました。
- ・第6回大学祭に向けて、2年生を中心とした大学祭実行委員が、前期から準備を進めています。様々な困難を乗り越え、達成する力を養う機会となることが期待されます。
- ・2年生は自家用車通学が多いため、交通事故防止のための注意喚起を行っております。ご家庭でも引き続きご指導をお願いいたします。

（担当：石倉・大平）

3年生の概況について

「卒業研究」(3年生) 担当教員

大学生活4年間の折り返し点が過ぎ、卒業まで1年半となりました。今年度の学外実習も社会福祉関係を残すのみです。一人ひとりが、将来を見据え進路を固める大切な時期が来ています。最近の概況についてお伝えします。

1. 学外実習について

- ・9月初旬から3週間（15日間）、「小学校教育実習」と「幼稚園教育実習Ⅱ」が行われました。この間、大学の教員は実習先へ出向き、現場の実習指導の先生方との懇談や実習参観を通して、日頃の授業やゼミとは違った実習生の姿を随所に知ることができました。実習では、子どもたちとの関わりを通して、指導の難しさ、責任の重さを実感しましたし、自分の努力や工夫が子どもたちの笑顔となって返ってくることで成就感も味わうことができました。今後はこの貴重な経験を、進路先の決定や大学生活後半の過ごし方に有意義に活かしてくれることを期待しています。
- ・社会福祉分野では、2~3月に「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」（25日間かつ180時間）が予定されています。長丁場の実習につき、学生の皆さんには日頃から十分な準備を行ってもらいたいものです。

2. キャリア支援（就職・進学）について

- ・3年生はこれまで全員が、「キャリア支援講座Ⅱ」で小学校教諭、幼稚園教諭・保育士、社会福祉士、企業等の4講座の中で希望する講座を受講してきました。後期も引き続き開講しますが、模擬面接や集団討論を織り交ぜるなど、前期の内容をさらにレベルアップし、一人ひとりの学生のサポートを充実させてまいります。
- ・いよいよ来年に迫った各種資格・採用試験に向かい、教員も一丸となっての取り組みを目指します。

3. 卒業研究（卒研）について

- ・4月から卒業研究ゼミに配属された3年生は、卒業研究とはどういうものなのか、教養演習の研究とは違うのか、自分はどんなテーマで追究しようかななどについて考えてきました。他大学・学部の多くは、卒業研究期間は4年次の1年間だけですが、子ども育成学部では3年次からの2年間を当てています。3年生のこの時期は、これまでの歩みを点検し、卒論のテーマを明確にし、研究を積み上げる態勢を整える必要があります。
- ・4年次になると、授業・実習に加えて、採用試験の準備なども含めた就職活動に多くの時間を取られ、卒研に掛けられる時間は予想以上に少なくなります。3年生のうちに中間発表のポスターを完成させるくらいの意気込みが必要です。学生の皆さんにも、再度、卒研シラバス（授業計画表）の見直しを勧めてまいります。
- ・4年生の就職状況、求人情報などが次々聞こえてきます。夢を叶えるには、厳しい現実があることを忘れてはなりません。これから卒業までは最も大切な時期。毎日の授業はもちろん、寸暇を惜しんで授業に専念すること、時間や生活の管理もまた大切です。
- ・保護者の皆様には、生活状況の把握、健康への留意、励まし等をお願いいたします。

（担当：仲井・本江）

4年生の概況について

「卒業研究」(4年生) 担当教員

卒業まで残り半年となりました。大学生活4年間の総まとめとしての後期が、いよいよ始まります。一人ひとりにとっては、卒業後の進路に向けての総仕上げとなる大切な時期がきていくことへの自覚が求められます。最近の概況についてお伝えします。

1. キャリア支援（就職・進学）について

- ・後期では、16名がインターンシップ実習を行います。教育・福祉・保育の実践現場で就業体験とともに、進路選択や専門職のあり方について考える良い機会となります。
- ・小学校教員採用試験では4名が合格、保育士・幼稚園教諭採用試験では、9月25日現在で公立・民間合わせて12名がすでに内定を得ています。社会福祉関係では、市町村職員採用試験や福祉職場説明会・職場訪問にもチャレンジし、10名が内定を得ており、公務員では2名が採用試験に合格しています。また、一般企業でも6名が内定を得ています。
- ・保育士・幼稚園教諭、社会福祉士採用では、昨年に引き続き求人が早くから出されています。学部では、キャリアセンターから求人情報について一斉メール速報で情報提供し、ゼミ担任が中心となり教育・保育・福祉・企業等の各専門分野との連携をとりながらサポートしております。就職においては、後になればなるほど採用条件が厳しくなりますので、早めに応募することが重要となります。ご家庭でのお声かけをお願いいたします。
- ・後期には、社会福祉士国家試験受験者を対象に「キャリア支援講座Ⅲ」が開講されます。1月25日の国家試験に向けて、最終的な受験体制に入ります。当日の試験は、午前2時間15分、午後1時間45分と非常に過酷な内容です。知力はもとより、体力と気力が不可欠となることから、体調管理も必要になります。保護者の皆さまの温かい励ましが大きな力になることと思います。引き続き、ご協力を願いいたします。
- ・教員一同、一人ひとりの学生がこれまでの学びを基盤に卒業に向けて、「なりたい自分になる」ためのサポートを行っていく予定です。保護者の皆様には、生活状況の把握、健康への留意、励まし等をお願いいたします。

2. 卒業研究について

- ・卒業論文は、4年間の学習や活動の成果であり、論文提出締め切りの1月上旬に向けて、一人ひとりが、教育・保育・福祉の各分野等を中心に、それぞれのテーマに向けて研究を進めています。5月末の中間発表では、研究成果を1人当たりA4判8枚分のポスターにまとめて掲示しました。10月の大学祭でも、再び4年生全員がポスター掲示をします。是非ご来校の上、ご覧下さい。
- ・卒業研究発表会は、来年2月7日（土）に開催されます。その前には、論文提出はもちろん、「要旨集」原稿提出のハードルもクリアしなければなりません。3年次前期に卒業研究を始めた頃は、発表会はまだ先でしたが、授業、実習、就活と忙しい日々を過ごしているうちに、残りわずかな期間となっていました。
- ・卒業研究は極めて創造的な作業です。将来、どのような職業に就いたとしても、この体験は必ず生きてくるはずです。今後は卒研で頭の中が一杯の日々が続くことでしょうが、保護者の皆様には、健康状態を気遣いながら、温かく見守っていただきたいと存じます。

（担当：吉田・相山）

9. 研究活動

1. 実績と現状

(1) 学部紀要の発行

- 「富山国際大学子ども育成学部紀要第6巻」(平成27年3月末ウェブ公開)
- 相山 馨 「ケアマネジメント実践における介護者支援」
- 大藪敏宏 「福祉の偶然性への配慮と家族から市民社会への移行の必然性—ヘーゲル市民社会論の全面的依存性の体系と偶然性」
- 大藪敏宏 「『トネリコの里』からの『知性・教養・個性』と南原繁の教育哲学—自校史・郷土教育と子ども育成学構築の基礎的研究」
- 大藪敏宏 「『日本現象』としての富山の『草刈り十字軍』運動に関する研究—西洋哲学との比較および国際日本学の観点から」
- 彼谷 環 「地方公共団体の男女平等政策に向けた動きと課題」
- 仲井文之 「国語学力の向上と富山県小学校教育研究会の役割—創立後10年の歩みから」
- 原 稔 「理科教材用天体写真の撮影に関する研究」
- 福島美枝子 「Teachers' Approaches to Elementary School English: An Analysis of Teacher Resource Books Recently Published in Japan」
- 堀江英一・相山馨・本江理子 「授業『地域社会参加活動』の教育的効果に関する研究」
- 宮田伸朗 「高岡の福祉を築いた先人達(1)」
- 村上満・山本小百合・吉川公章 「スクールソーシャルワーカーの機能に影響を及ぼす要因—エンパワメント概念モデルの検討に焦点を当てて」
- 室林孝嗣 「障害のある人の相談支援従事者の人材育成の取り組み—富山県における相談支援専門員の人材育成の取り組み」

(2) 助成研究への取り組み

①文部科学省学術研究助成基金（科学研究費補助金）

- 相山 馨 「介護者のケアマネジメントにおけるアセスメントツールの開発」
平成25～27年度
- 村上 満 「スクールソーシャルワーカーの学校現場への定着に向けた総合支援カルテの開発」
平成24～26年度
- 吉田 昌弘 「『教育』概念によって統合された法制度の形成過程についての歴史的研究」
平成25～27年度

②(財)富山第一銀行奨学財団助成研究

- 辻井 満雄 「富山県小学校における『ふるさと教育』の現状と課題」
平成26年度
- 大藪 敏宏 「富山の『草刈り十字軍』運動に関する研究—西洋哲学との比較の観点から—」
平成26年度
- 堀江 英一 「『地域社会参加活動』がもたらす教育的効果に関する研究」
平成26年度

③(財)富山第一銀行奨学財団助成研究 研究発表会(平成26年7月11日)

- 原 稔 「教員のための理科授業用天体写真の撮影マニュアル作成に関する研究」
(平成25年度研究)

(3) 研究交流サロン

第13回研究交流サロン～仲井文之教授 講演（平成26年6月25日）

「山田孝雄先生について—山田孝雄の人生を拓いた名著『日本文法論』誕生までの軌跡」

(4) フォーラム及び公開セミナーの開催とニュース・レター「子ども育成研究」の発行

- ・「子ども育成研究第9号」（平成26年10月発行）

内容：第6回子ども育成フォーラム報告・キャンパスニュース・教員の研究活動

- ・「子ども育成研究第10号」（平成27年3月発行）

内容：第6回公開セミナー報告・キャンパスニュース（学生進路状況）

(5) 「子ども育成学会」構想に基づく卒業生及び在校生の研究活動

・小学校教育研究会は、平成27年2月28日にE館で「第3回年次大会」を開催。西部教育事務所主任指導主事・原野克憲氏、射水市立大門中学校教頭・竹脇久雄氏、筑波大学准教授・唐木清志氏を講師として招き、社会科教育をテーマに公開セミナーを実施した。卒業生の教員16名、在校生26名、県内の小中学校・教育委員会等から34名の参加があった。

・保育サークルは、「にながわ保育園」の誕生会や「こどもみらい館」のクリスマス会に参加して研修を行なった。

2. 課題

(1) 紀要の発行

今年度は2点改善が図られた。まず3月初旬で原稿提出が締め切られ、第二に紀要委員会によって提出原稿の査読が行われた。学部専任教員11名及び外部共同執筆者2名から計12篇の投稿があった。来年度も年度末の多忙が予想されるため、各教員の早期の準備によって多くの寄稿が望まれる。

(2) 研究助成の競争的資金獲得への取り組み

① 文部科学省学術研究助成基金（科学研究費補助金）

今年度は3件の研究が行われた。今年度は新規採択がなかったが、平成27年度は子ども育成学部で3件の新規採択があったため、既採択のものを加えて5件の研究が実施されることになる。今後も積極的な応募によって多くの研究が行われることを期待したい。教員は皆、教育活動や各委員会の活動に時間を割かれることが多い中で研究にも専念できるよう努力をしている。そのための大学の環境づくりも大変重要となっている。

② (財)富山第一銀行奨学財団助成研究

今年度の研究担当者は学部の紀要に投稿して成果を公表した。今後もこのように公表の方針で進めることが望ましい。

(3) 研究交流サロン

今年度は第13回のサロンを開催し、2万ページ以上の著作のある富山の偉人、山田孝雄の功績とともに、「日本文法論」を読み続ける仲井教授の情熱に学んだ。大学HPで公表し、大学らしい研究面の状況を公開している。来年度は2回の開催を目指したい。

(4) 「子ども育成学会」の構想に基づく卒業生及び在校生の活動

小学校研究会の年次大会と保育サークルの学外研修が活発に続けられている。各分野を束ねた全体的な「子ども育成学会」を構築できるかどうかは未知数であり、現時点では、これまでの分野ごとの研究活動がさらに発展することを期待したい。

10. その他

1. 実績と現状

(1) 子ども育成学部学位記授与式

- ・第2期生9月卒業1名：平成26年9月26日（金）11:00～、東黒牧キャンパス会議室
- ・第3期生76名卒業：平成27年3月18日（水）10:00～、富山国際会議場3階ホール

(2) E館1階ラウンジのLED照明器具増設（アクションプラン事業）

- ・ラウンジ照明の照度アップ工事を実施（平成26年5月30日（土）・6月1日（日））

(3) 文部科学省教職課程認定大学実地調査

- ・平成26年12月10日（火）9:30～16:30 E館2階会議室、呉羽キャンパス各施設
- ・視察委員：横須賀薰（十文字学園女子大学長）委員、和泉研二（山口大学教育学部教授）委員、窪田徹係員・松田信之係員（共に文部科学省初等中等教育局教職員課免許係）
- ・教育委員会関係者：県一宮池秀洋管理主事、高村英里主事
市一豊田高久主幹管理主事、岡崎佳子主幹指導主事
- ・全体講評は、「積極的取り組みに感銘したとともに、小中一貫教育を視野に入れ、全学的な教職課程、組織の更なる充実に努めて欲しい」とのコメント。「地域社会参加活動」及び「富山に学ぶインターンシップ」は全国に発信できる優れた取組であるとの好評を頂いた。教職課程科目の一部名称変更の検討要請。教育課程、履修方法及びシラバスの状況に関しては、「今後、コース履修等を検討するなど、各学校種における教員としての専門性を担保できるよう履修上の配慮・工夫を図ること、「シラバスの記載内容及び記載方針を定め、法令に定める『各科目に含めることが必要な事項』が取り扱われているかどうかをシラバスの授業計画から確認できるようにする」とこと、教育実習の取組状況に関しては、「遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい」ことが指摘された。

(4) 平成26年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業「タイプ1」採択 ※次ページ参照

- ・交付額13,918千円 子ども育成学部には、積み木（スポンジ56組・材木74組）、遊具器具、音響機器1セット、ハンディカム3台、実物投影機・ブルーレイプレーヤー・ラック（8セット）納入。

【平成25年度は、テーブル8台・椅子24脚、キャレルデスク20台、自習用ブルーレイプレーヤー・モニター（10セット）】

(5) ホームページ掲載

- ・子ども育成学部ブログ（H26.4～27.3.27）
内訳：ニュース82件・イベント7件
(H25年度：ニュース45件・イベント14件)

2. 課題

- (1) 1階ラウンジ設置の学生用プリンターの更新検討
- (2) 教具・備品等の故障・修繕の増加
- (3) 学生数増加に伴う教室・教具不足とその対応、アメニティー空間、学習環境の整備
- (4) 呉羽キャンパス各機関との各種調整（時間割、施設使用、行事日程等）

※私立大学等教育研究活性化設備整備事業「タイプ1」

品名	数量	年度	タイプ
クリッカー	200 ユーザー	25	1
ノートパソコン	3 台	25	1
キャレルデスク	20 台	25	1
キャンパスチェア	20 台	25	1
ブルーレイディスク	10 台	25	1
ディスプレイ	10 台	25	1
ヘッドホン	10 台	25	1
書画カメラ	8 台	26	1
HDD 搭載 BD レコーダー	8 台	26	1
クラスルームワゴン	8 台	26	1
箱積木(大)74 個組	1 式	26	1
ソフトフォーミング 56 個組	1 式	26	1
ゲームボックスアクティブセット	1 式	26	1
ゲームボックスセット	1 式	26	1
ハイレゾリューション対応オーディオスピーカー	1 台	26	1
マルチオーディオプレーヤーシステム	1 式	26	1
リニア PCM レコーダー	1 台	26	1
ビデオカメラ	3 台	26	1
リモコン三脚	3 台	26	1

平成 26 年 12 月 10 日 文科省教職課程実地調査の概要について

子ども育成学部

○ 質疑応答

(横須賀委員・和泉委員)

1. 以前にあった「中・高教職課程」は、何故廃止したのか？英断？

教職課程履修者の減少に伴う廃止とのことだが、教職課程は大学の「売り」でもある。

子ども育成学部を短大キャンパスに集中したのは、よい選択だった。

2. 子ども育成学部について

- ・学部名称がユニーク。全国唯一ではないか。
- ・コース制は取らないのか？入学後のコース分けなどを検討しても良いのではないか。
- ・「小中一貫」の流れに取り残されないよう。中学校課程開設は、考えないので？
- ・大学の考える小学校教員像と学生が考えている像とにギャップはないか。
- ・履修上の学生アドバイスはどのように行っているのか。

3. 母校実習は、実習校選定努力の放棄であり、実習校への指導丸投げになりがちである。

実習校と大学の教育研究の一体的発展のためにも、特定の学校との連携が重要である。

4. 「子ども育成をめぐる課題の包括的解決ができる人材育成」を使命としていることは良いが、「特別支援教育」に関する科目が薄い。

5. 「地域社会参加活動」「富山に学ぶインターンシップ」は、能動的な学びである。

シラバスには、より具体的な活動内容を記載するとよい

6. 「幼稚園実習Ⅱ」は、いつ実施しているのか？

小学校教育実習と重なる学生への対応はどのようにしているのか。

7. 「教職実践演習」で「履修カルテ」は、どのように活用して指導しているのか？

8. 教職課程委員会と全学組織の関係は？

9. 教育実習の事後指導は、どのように実施しているのか？

10. 施設見学などの場合、学部機関の窓口はどこか？

★「地域社会参加活動」の冊子を拝見したが大変よい。島根大の「1000 時間体験」より余程良い。

(文科省窪田係員)

11. シラバスは、規則に定める「含めることが必要な事項」をふまえるよう、全科目見直しをされたい。特に「生徒指導論」には、「進路指導」を含む内容・名称にされたい。科目の名称から内容が逸脱する可能性を防ぐためである。

(別紙)「シラバスに関する指摘事項」参照

「講評」横須賀委員

1. 全般的な事項

- ・「子ども育成学部」という名称は全国唯一であり、夢や希望が込められていると思う。理念を持って教職課程の充実に向けた積極的な取組みに感心させられた。
- ・地域密着型であり、全国に発信してもおかしくない実績がある。「地域社会参加活動」の取組みはその中の一つであり、実地調査の事後報告書にも掲載紹介したい。

2. 個別的事項

(1) 教職課程の指導体制・全学的組織

- ・指導体制を明確化・具体化するために、教職課程の戦略的事項について検討する場としてより一層充実したものとなるよう努めてほしい。理念を支えるには、学部長または学長を委員長とするか、学長・学部長と直結した組織とし、理念を支える委員会にした方が良い。
- ・現状の委員会では、実習など実務処理になりがちである。事務との大きな繋ぎは、委員会のトップである。事務と協働して実務・事務を行うのが良い。

(2) 教育課程・シラバス

- ・大きな基準違反やズレはない。
- ・小学校、幼稚園に加え保育士、社会福祉士と4つの“分野”を履修させていることについて、現時点ではうまくいっていると思うが、履修のさせ方について学生の実態と教員の思いにギャップが生じることもあるのではないか。教職員が入れ替わっても学生に方向性が見えやすいようにシステム化すべきである。各“分野”は定員配置されていないため、入学後のコース制導入も検討に値する。
- ・事前に指摘した科目はもちろん、シラバスの見直しは絶えず必要である。
- ・大学と短大のシラバスの様式が違っているが、同じキャンパスでもあり、共通化を検討されても良い。
- ・幼保小連携と併せて、小中連携も念頭に入れ、取り残されないようにされるとよい。
- ・普通教室における特別支援教育について、カリキュラム上の配慮が薄いのではないか。

(3) 教育実習

- ・母校実習については、特に高校教員免許実習で実習校に丸投げになりがちで、好ましくないとされている。富山国際大学の場合は、一般論としての「止めるべきである」には該当しないが、地域密着で教育委員会や学校とも連携しているからこそ、拠点の実習校をおき、実習校でも指導の蓄積を高め、大学と連携しながら実習指導の質を高めていくことが望ましい。教育実習と研究教育が一体となることで大きな成果がある。教育実習は職業体験ではない。実習生は、1校1名がいいとは限らない。2~3名の複数配属は協力したり見合ったりと、むしろ良い効果があると言われている。
- ・実習事務と就職関連の事務は別々にするべきである。

(4) 教職指導体制

- ・教職指導体制は、今のうちは機能しているが、現体制は長続きするものではない。
- ・小学校教職課程委員会をセンター化して、学生が自由に出入りでき、専任ではなくても指導教員が常駐する独立空間としてのセンターが必要である。

(5) 教育委員会等の関係機関との連携

- ・学生には様々な経験が求められているため、「地域社会参加活動」などは、全国に情報発信すべきである。

(6) 施設・設備

- ・不十分である。
- ・図書・雑誌も新しいとは言い難い。
- ・教科書が事務室に配架してあるのは、いかがなものか？
- ・絵本は十分にある。

3. 総括的には

- ・引き続き現在の水準の維持向上に努め、地域密着型養成課程として、全国の模範となるようお願いしたい。
- ・教員養成には、教員のFD活動及び教員養成に対するSD活動が大切である。

「補足」和泉委員

(1) 教職課程委員会は、組織として学長・学部長も含めて、教職課程の動向（免許法改正、小中一貫、英語の教科化、特別支援教育など）を踏まえて方針を学部の方針とのすり合わせを行う委員会である。現体制は実動と議決が一緒になってしまっている。組織として学長のリーダーシップの元で運営することも今後検討が必要。

(2) 実習校は、ランダムな母校実習ではなく、付属小のように拠点校として指導の蓄積を行い、高め合う工夫をしていきたい。

(3) 教職指導室を設置して、学生から見える指導とされたい。

(4) 体育館・グラウンドは有効活用されているが、不十分。プールがない、努力されたい。

(5) 図書の検索システムはあるが、1か所に集約して学生の使い勝手を良くされたい。

(6) 「地域社会参加活動」「富山に学ぶインターンシップ」は地域に根ざした大学として頑張っている姿がよくわかる。能動的な学びが学生の力になる。今後の発展を祈念したい。

「感想」富山県教委

- ・丁寧な教職指導をしておられるのが印象的である。
- ・大学教員の指導のあり方が質の高い教員養成につながる。今後も富山の教育の発展に貢献されたい。

「感想」富山市教委

- ・整った施設、豊富な教材・教具、学生も真剣に学んでいる。
- ・「地域社会参加活動」や理科支援員（観察アシスタント）は、市の小学校教員にとってもありがたい。
- ・現場では、保護者の価値観が多様化しており、幼小中の連携・地域や家庭との連携を重視している。今年度は幼稚園から小学校に異動した教員も3名おり、幼小両免許をもった教員養成や、小社の資格免許をもったスクール・ソーシャルワーカー養成など、連携の充実や生徒指導にとっても心強い。
- ・富山市では大量退職が続いているが、今年度も50名弱の若手教員を採用した。学校が活性化している。5月には指導主事訪問を行い、初任者懇談会も開催するなど、初任者が1年かけて育つ様子を見守り支えている。
- ・市教委では初任者研修に力を入れているが、子ども・保護者・同僚とのコミュニケーションが苦手な若者が目立つ。情熱を育む養成教育に取組んでおられるので、期待している。

(別紙) シラバスに関する指摘事項

授業科目名	指摘事項
小学校教育実習、指導	幼免の教育実習に係る科目名称として不適切と思われる。名称を再考すること。(実習先の指摘ではない。)
生徒指導論	進路指導についても行う授業科目であるため、進路指導の内容がわかるよう名称変更を検討すること。 また、授業内容において、進路指導に関する内容が確認できない。
教育心理学、発達心理学	各科目に含めることが必要な事項のうち、「心身に障害のある幼児、児童及び生徒に関する心身の発達及び学習の過程」に関する内容が確認できない。
保育内容(環境)	指導法に関する内容が過少であり、教科に関する科目のように見受けられる。(指導案作成、教材研究、模擬授業の内容が確認できない。)
家庭科教育法	模擬授業の実施が確認できない。
保育内容総論、保育内容(健康)、保育内容(人間関係)、保育内容(言葉)	テキスト、参考資料等として、幼稚園教育要領を定めること。

11. 将来構想

1. 実績と現状

(1) 子ども育成学部アクションプランの策定

① 全学のアクションプラン（H26～28）に対応した取り組み

平成 25 年度末に全学のアクションプランが策定され、子ども育成学部においても、策定に向けた検討を行った。具体的な活動計画（3 カ年計画）については、26 年度当初に策定し、全学のプランに組み込まれた。

② 子ども育成学部の各部署の新規・重点事項の設定

アクションプランに呼応しつつ、学部内の各部署の新規・重点事項の設定について検討した。26 年 4 月に、「平成 26 年度 各委員会の事業計画（主な所管事項、重点・新規事項）」（[参考 3] を参照）を策定し、実施に向けて取り組んだ。

(2) 「子ども育成学部第 2 期運営計画（中間まとめ）」とアクションプラン等の整合性

子ども育成学部では、平成 24 年 8 月に「第 2 期運営計画（中間まとめ）」を策定し、平成 24 年度から 26 年度にかけて、その実現に向けて改革に取り組んできた。平成 26 年度の取り組みの要点は、以下のとおりである。

① 26 年度新教育課程の実施

25 年度中に学則を改正した。26 年度入学生から、1 年次「英語 II」及び「キャリア支援入門講座」の必修化など、新教育課程による授業を開始した。

② 教員組織の再編成

「保育表現（図画工作）」担当教員の欠員補充、「保育原理」担当教員の転出に伴う後任補充を実施した。

③ 学生支援の充実

学友会・サークル活動・同窓会活動など学生支援を強化してきたが、同窓会子ども育成学部支部は結成されたばかりであり、特段の支援強化が必要である。

④ キャリア支援の充実・体系化

26 年度新課程から正規科目として実施した。

⑤ 研究・交流事業（子ども育成研究交流センター）の強化

学内学会設立への動きは、依然小学校分野にとどまっており、保育分野、福祉分野での設立に向けた支援強化が必要である。

⑥ 実習環境の整備

実習事務担当者の配置は未達成である。実習協力園の確保については、「幼稚園教育実習 I」の学外実習協力園の開拓・連携協力が進んだが、民営化保育園の受け入れについても、未達成である。

将来計画に向けた学部独自の取り組み（第 2 期運営計画）が先行し、その後に全学的な規模でアクションプログラムの策定作業が始まったことから、今後もそれらの整合性に留意していかなければならない。

2. 課題

(1) アクションプラン等の実施と PDCA サイクル化

アクションプラン（全学・学部）と、それとの関連で学部各部門の行動計画や新規・重点的に取り組む事項についても、確実に実施して、PDCA サイクル化していかなければならない。

(2) 学園創立 50 周年以降の中長期的構想

本学園は、昭和 38 年に地域密着型の学園（旧.学校法人富山女子短期大学）として設立された。創立 50 周年の平成 25 年以降の経営戦略・計画は、現在のところ不透明である。

北陸新幹線の開通に伴い、北信越・関東地区の諸大学との競争激化も見込まれる中で、富山短大の発展型として呉羽キャンパスに開設した子ども育成学部の将来を確かなものにするためにも、学園の中長期的な構想を積極的に検討していかなければならない。

(3) 子ども育成学部の中長期的構想

平成 27 年度の委員会体制として、新たに「学部将来構想検討チーム」が設置されることになっている。今後、精力的な作業により、早急に中長期的構想を練り上げるとともに、学園全体の構想策定に向けた刺激剤となることも必要である。

〔参考 1〕「富山国際学園 50 年史」に記された「子ども育成学部の未来像」

平成 26 年 3 月発行の「富山国際学園 50 年史」の中で、宮田伸朗子ども育成学部長は、以下のとおり「子ども育成学部の未来像」について記述している。

子ども育成学部の教育理念・目標は、人口減少時代における健全な次世代の担い手を育成する、資質の高い教育・保育・福祉の専門家を養成することにある。地域における社会的使命達成のための課題は多い。

中長期的課題としては、①中学・高校・特別支援学校教員、心理・精神保健福祉人材などの養成課程開設、②教育課程の一体化を軸とする高大接続、保育・介護系人材養成学科との連携・接続など学園内の一貫教育システムの構築、③いじめ・学力向上、子育て支援など地域課題の解決のための県内自治体との共同研究や協働の推進などがイメージされる。

〔参考 2〕「平成 27 年度予算要求書（1. 子ども育成学部の概要）」に記された「将来展望」

子ども育成学部では、例年の予算要求書の冒頭に「子ども育成学部の概要」を提示し、その中で「将来展望」を記載している。平成 27 年度予算要求書では、以下のとおりである。

○子ども育成に関する社会的要請に応えうる学部の将来構想について検討する。

(例)

- ・中学/高校教員免許課程、4 年制保育教諭課程(仮称)、心理・精神保健分野の開設など
- ・複数資格履修コースの整備、学部定員増など
- ・中長期の課題（特別支援教員免許、高度な専門職教育など）についての研究

〔参考3〕「平成26年度 各委員会の事業計画（主な所管事項、重点・新規事項）」

3. 平成26年度 各委員会の事業計画（主な所管事項、重点・新規事項）（案） 平成26年4月30日(木) 学部連絡調整会議・資料

学部委員会	主な所管事項	平成26年度 重点・新規事項
学部運営委員会	学部運営に関する全般的な事項についての企画・連絡調整	・定期例会による機能強化
ゼミ担任	学生の教育・生活指導、保護者連絡	・学生数増に対応したきめ細かな指導
適応支援チーム	不適応学生の対応支援	・迅速かつ効率的な機能強化
入試対策委員会	入試運営、広報、学生募集	・特別奨学生入試の拡充（「市町村連携型」新設・「成績優秀者」増）
学務委員会		
教務部会	教育課程の運営、学則改正、単位認定、進級・卒業判定、全学委員会との連絡調整	
教養演習WG・卒業研究WG	ゼミの連絡調整、研究発表会	・自校教育(初年次教育の実施) ・「卒業研究の手引き」作成検討
資格免許養成課程委員会	教育課程の運営、非常勤講師連絡調整、実習指導部会の運営	
教養科目教育課程委員会	教養科目	・新設科目的円滑な実施
保育者養成課程委員会	保育士資格・幼稚園教諭免許	・文科省現地調査への対応 ・保育士・幼稚園教諭特例制度講座開設の検討
小学校教職課程委員会	小学校教諭免許・（スクールSW資格）	・文科省現地調査への対応
社会福祉士養成課程委員会	社会福祉士資格・（スクールSW資格）	・（仮）「社会福祉研究会」の立ち上げ
実習指導センター	実習の企画運営・実習生指導・実習施設他校との連絡調整	・実習履修要件の厳格化（GPA活用等）
幼稚園教育実習部会	幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱ、自主研修	・幼稚園教育実習Ⅰの充実（みどり野30・その他学外実習園確保）
保育所教育実習部会	保育児実習Ⅰ・Ⅱ、自主研修	・自主研修の推奨
施設実習部会	施設実習Ⅰ・Ⅱ、自主研修	・実習施設確保の準備（次年度2年生101名）
小学校教育実習部会	小学校教育実習、自主研修	・市町村教委との連携強化
介護等体験部会	介護等体験	・実習指導の充実（「手引き」作成検討・提出物の徹底等）
相談援助実習部会	相談援助実習Ⅰ・Ⅱ、自主研修	・実習施設の拡大・確保
富山に学ぶインターンシップ部会	インターンシップ	・実習指導の強化
学生支援部会	学生生活支援、学生の福利厚生	
学生支援チーム	学友会・大学祭・サークル支援	・吹奏楽団・合唱団立ち上げ、学生ボランティアセンター立ち上げ準備
キャンバス環境整備チーム	キャンバス環境整備	・6階ラウンジ学習環境整備
卒業生支援チーム	同窓会支援	・（仮）「保育研究会」・「社会福祉研究会」の立ち上げ
(学部)キャリア支援委員会	キャリア講座、就職・進路指導	・1年次正課「キャリア入門講座」開始 ・行政職希望者対策の検討
(学部)子ども育成研究交流センター	公開講座（フォーラム・セミナー・教員免許更新講習・三大学連携講座）等	・保育士・幼稚園教諭特例制度講座開設の検討
	調査研究（実践研究交流、研究サロン等）	・子ども育成学プロジェクト
(学部)図書館・紀要委員会	図書購入、紀要編集	・研究倫理の徹底 ・図書館ニュース（大学図書館）の取り寄せ配布
(学部)広報・情報委員会	ブログ・配布物など作成・発信	・ホームページの見直し ・ブログアップ数の増（年間70件）
(学部)自己点検・評価委員会	自己点検評価	・平成29年度認証評価への準備
関係団体担当との連携担当	関係団体との連絡調整	・市町村教委との連携強化